

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第77回）
議 事 要 旨

1. 日 時 令和5年3月23日（木）11:00～15:10
2. 場 所 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター Terrace Room・
オンライン会議
3. 出 席 者 川合議長、伊藤評議員、井上評議員、小谷評議員、小間評議員、
永原評議員、長谷川評議員、早坂評議員、福田評議員、
松本評議員、渡邊評議員、井本評議員、古屋評議員、
常田評議員、吉田（善）評議員、阿形評議員、鍋倉評議員、
渡辺評議員、吉田（道）評議員、森崎評議員、久保評議員、
山本評議員
（陪席者）
小川監事、二宮監事
（事務担当者）
事務局 大川総務課長、後藤人事労務課長、佐々木財務課長、
田中研究協力課長、宮内施設・資産マネジメント室長、
国立天文台 藤田事務部長、核融合科学研究所 野田管理部長、
岡崎統合事務センター 大宮事務センター長、久保田財務部長 他
4. 配付資料
教育研究評議会評議員名簿
 - 1-1 教育研究評議会（第75回）議事要旨（案）
 - 1-2 教育研究評議会（第76回）議事要旨（案）
 - 2 機構長選考・監察会議規程の一部改正について（案）
 - 3-1 名誉教授称号授与候補者名簿
 - 3-2 名誉教授称号授与規程
 - 3-3 名誉教授関係資料
 - 4 経営協議会外部委員（案）
 - 5-1 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（原案）
 - 5-2 中期目標の達成状況に関する評価結果（案）

- 6 前回書面会議の意見
- 7 各機関の今後の方向性及び令和6年度概算要求について
- 8 令和5年度経営協議会及び教育研究評議会開催日程
- 9 研究発表資料

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数に達している旨の報告があった。

1) 議事要旨の確認について

前々回及び前回教育研究評議会（第75回及び第76回）の議事要旨（案）（資料1-1及び資料1-2）を承認した。

《審議事項》

2) 機構長選考・監察会議規程の一部改正について

渡邊評議員から、資料2に基づき、機構長選考・監察会議規程の一部改正について説明があった後、小間評議員から、機構長選考・監察会議における検討の状況について説明があり、審議の結果、案（資料2）のとおり了承した。

3) 名誉教授の称号授与について

事務局から、資料3-2に基づき、機構の名誉教授の称号授与に関する関係規程の説明があった後、名誉教授称号の授与候補者の所属する機関の長から、資料3-1及び資料3-3に基づき、名誉教授推薦理由について説明があり、審議の結果、案（資料3-1）のとおり了承した。

4) 経営協議会外部委員について

事務局から、資料4に基づき、経営協議会外部委員について説明があり、審議の結果、案（資料4）のとおり了承した。

《報告事項》

5) 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について

井本評議員から、資料5-1及び資料5-2に基づき、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について報告があった。

《その他》

6) 前回書面会議の意見への回答について

川合議長から、資料6に基づき、前回書面会議の意見への回答について説明があった。

7) 各機関の今後の方向性及び令和6年度概算要求について

各機関等の長から、資料7に基づき、各機関の今後の方向性及び令和6年度概算要求について説明があり、意見交換を行った。

(主な意見等は以下のとおり)

(○は各評議員からの質問・意見、➡は各評議員からの質問に対する回答)

- 例年、概算要求額に比して予算措置額は大きく削減されているが、当該削減分についてはどのように対応しているのか。
- ➡ 岡崎3機関は運営費交付金とほぼ同規模の外部資金を獲得しており、研究設備の維持費等は外部資金で賄うことが定着している。
- 研究者個人の自由な発想に基づく研究に対する予算と、組織としての運営や研究環境の整備に対する予算の境界がなくなっていると感じる。必要なものが運営費交付金で措置されるべきであることの重要性を各方面へ説いていくことが大切ではないか。
- ➡ 国立天文台のように、大型プロジェクトを推進しミッションに沿った運営を行っている機関にとっては、運営費を外部資金で賄うことに構造上の困難を伴うが、そうした中でも外部資金の獲得額を増やす努力をしている。
- ➡ 核融合科学研究所では、これまでは運営費の大半を大規模学術フロンティア促進事業により賄ってきた。このような財務体質を改善し、今後は多様な財源の確保に努めていくこととしている。
- ➡ TMTなどの国際的な共同研究プロジェクトに対する予算は、国内の財政事情によるものだけに止まらない。国内外の様々な視点でサポートが得られると良いと考えている。委員の皆様には今後も各方面でご意見を挙げていただきたい。
- ➡ 岡崎3機関では、大規模な設備や装置の整備が困難な状況にある。個々の大学では整備できないような、大学共同利用機関が備えるべき設備が整備できなくなってきた点を危惧している。

- スピン生命科学コアとは具体的にどのような取組か。
 - ➡ 岡崎の各研究所はどれも規模は大きくなく専門性が固定化されているが、これを広げていく取組で、スピンプローブを使った新しい画像化を目指すものである。特に若手研究者が積極的に参画している。
 - ➡ UVSORの次期計画においても、これまでの分光学にとどまらず範囲を広げていくこととしている。
- 次期UVSOR-IVとは、現行の装置を取り壊して新たな装置を開発しようとするものか。
 - ➡ そのとおり。更新に向けてコミュニティの議論も進行している。
- 大学共同利用機関の在り方が問われる時期にきている。AIなどを積極的に活用した取組を強化していく必要がある。自然科学研究機構に閉じたまま概算要求を行ってはいない国際競争に勝てない。日本の科学総体としての将来を考えたとき、機構の枠を越えて、少なくとも大学共同利用機関全体で共同利用・共同研究システムの在るべき姿を考える必要があるのではないか。そのためには、予算の枠組みの問題があるものの、どのような装置をどのような機関が整備して分担すべきか、組織の連携をどのように図るのか等について、自然科学研究機構がイニシアティブを取り、機構の枠を越え、共同利用体制全体を推進していただきたい。
 - ➡ 昨年3月に、一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンスが設立されることにより、大学共同利用機関全体で有機的に議論ができる土壌ができつつある。また、大学の附置研究所にも一定の分野では全国に向けた共同利用の体制をとっている。それらを含めた共同研究のベースを作る在り方を議論していかなければならないと考えている。この点について、来年度以降、アライアンスで議論できればと考えている。
- スピン生命科学コアについて、岡崎の複数の研究所が連携することはすばらしい。財務省の理解を得るために、より一層、この取組の重要性や喫緊性を素人にも分かりやすい形でアピールしていただきたい。また、大学と違い学生数の減少の影響をそれほど受けない大学共同利用機関においては、大学とは異なる形で予算が確保されることが望ましいと考えている。
 - ➡ スピン生命科学コアは、サイエンスとしては非常に新しい分野であり、物性科学と生命科学、特に臨床生理学と脳科学の面白さがある。また、アウトプットとして、新しい癌のスピンプローブができつつあることなど、病気の診断に関する点をアピールしていきたい。
 - ➡ 個々の大学では設備を整備することが困難な状況に鑑みると、共同利用の

システムを強化し、大学共同利用機関において設備を整備することの重要性は益々大きくなっていると認識している。

- ➡ 岡崎では、オープンミックスラボ構想について予算要求を行っている。先端機器を整備して全国から若手研究者を受入れ、日本全体の底上げとともに世界と戦っていくという構想である。大型の研究設備を共同利用に供するだけが大学共同利用機関の役割ではないことを改めて浸透させていく必要があると考えている。
- ➡ 各評議員から頂いた御意見は、今後の概算要求に当たって活かしていくこととしたい。

8) 令和5年度の会議開催日程について

事務局から、資料8に基づき、令和5年度の会議開催日程について報告があった。

9) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、分子科学研究所の大森 賢治 教授から、資料9に基づき、「量子スピード限界で動作する冷却原子型・超高速量子コンピュータ」と題して発表が行われ、意見交換を行った。

以上